



中村俊定文庫
文庫 18
42
5



毛吹草題目錄

秋部



初秋

七夕

一葉

桐

秋柳

秋納涼

秋堂

秋蟬

絲扇

露

霧

萩

朝顏

木槿

女鳥花

桔梗

萩

蘭

薄

芙蓉

花世

秋草花

芭蕉

相撲

躍

稻毒

田

虫

鹿

鴈

色鳥

鳴

鶉

鰯

秋鷲

礎

月

名月

十三夜

菊

葛

楓

色象

名木紅葉

木實

澁鮎

お象鮎

雜鮎

毛吹草卷第六



殊

初秋



月は初秋の風をすくも安知

秋の世にこれ秋の風をすくも

文月の書も秋の風をすくも

七夕

七夕の初秋の風をすくも

雨天ありまは

涼より雨のあつみの二星 重頼

ちよりのあつみの七夕の初秋の風をすくも 弘永

たかると織を結ぶの事春は
宿のんせ夕にぬや梅のめ宗法
の事春といもまの事宗法
正利
七夕の織布はくせ天川 徳宗

一葉

一葉のそらと桐葉と始の那 重友
一葉の舟花梅や露乃玉 永次
大まきける梅の二葉や流るら 康年
秋風のそらや一葉の舟あらし 重雄
一葉の舟書函や秋の物 一正
一葉や吹する風のまぐらぬ 元弘

一葉や網舟となに蜘蛛の糸 徳宗
一葉の舟あらしや梅の舟 光宗

桐

風まの舟あらし流るら梅の舟
桐の舟も流るら梅の舟 徳宗
舟あらしや梅の舟 徳宗

柳

舟あらしや梅の舟 徳宗
秋風の舟あらしや梅の舟 徳宗
舟あらしや梅の舟 徳宗
秋風の舟あらしや梅の舟 徳宗

うき林の葉のさびた柳の葉の
影のさびた柳の葉の影のさびた
影のさびた柳の葉の影のさびた

秋の涼

涼のさびた柳の葉の影のさびた
涼のさびた柳の葉の影のさびた
涼のさびた柳の葉の影のさびた

秋雲

木にほそくたつ雲や上は空
長き雲もや秋の雲は雲は
未だ火の秋の雲は雲は

蝉

秋の蝉のさびた柳の葉の影のさびた
秋の蝉のさびた柳の葉の影のさびた
秋の蝉のさびた柳の葉の影のさびた

秋扇

秋の扇のさびた柳の葉の影のさびた
秋の扇のさびた柳の葉の影のさびた
秋の扇のさびた柳の葉の影のさびた

露

露のさびた柳の葉の影のさびた
露のさびた柳の葉の影のさびた
露のさびた柳の葉の影のさびた

追善

追善のさびた柳の葉の影のさびた
追善のさびた柳の葉の影のさびた
追善のさびた柳の葉の影のさびた

霧のやまのたぐよの秋の風を摩

霧

是の又霧とて夜もも風袋重頼
霧の海より白路も波の
笛古様もも理りも方海重方
風の白吹ももも嵐もも垣正
大海とて拍てせく霧もも西直

萩

萩の海字の萩は萩の萩よ昌
たごよれはのよも萩の風心
萩萩のあどお物も浪の夢秀重

秋風入らまのよも萩の夢よ一
まろふて風も萩のまろふ
淡墨丹風終まろし萩の声 宗

朝顔

朝顔も只ちら射とたの妻成政
あさうのの花のまもあまの
あさうの目もあまの波
朝顔もあまのあまの風亦
横やるもあまのあまの良
朝顔もあまのあまの良

朱槿

落のむけ冠しんぐも重き
花の貞もさくも白まじりば

女郎花

あぢや花の海もあはれ
なまのちもあはれ
一河成らねる女も
此風を五障乃内とん
云乃あぢや
あまのいも
身もあぢや
あまのいも
男山のりれ

○なる人の勝打めくも女も

雨落の息みあはれ

女郎花あはれ

女は花の文もあはれ

桔梗

笑花の志もあはれ
結乃桔梗と花の一重外

萩

足若野の萩と

草わらふ萩もあはれ

中国の萩と

あまのいもあはれ

一年に廿九秋の花は水秀重
 秋薄あつた好く草あり也 宗隆
 秋風やはらぎに花のた衣 西武
 秋の錦あももんるは秋葉 徳宗
 とぬ花のいろはふかき水日
 秋の風はひらき水葉 一木
 踏のいそぎとわはれ小葉 宗隆
 小葉はひらきやうは秋葉 西武
 仙人やまよりし白き秋む 重方

蘭

山の錦花は金蘭の花は余弘水
 咲花はさるとぬぐとる花は 昌宗

とみくさにあつた花は 康庸
 りり果る枝はひびやくえは秋葉 宗朋
 色りぬ一とらんらの花は 宗隆
 花はあつて咲や大は花は 徳依
 からはまのひらき花は 西武
 蘭葉は人と又は花は 昌宗

薄

秋人乃手と切ると薄は 西利
 袖はあぬるうが袖の尾花は 宗隆
 出る袖も長袖なれは薄は 徳宗
 尾花は袖まくりすは 昌宗
 秋はあつた花の旗は 昌宗

風のもやかつか / 流るる廣則
風よりいさなり袖の尾花亦 秋風
秋風よ流るる おちむしや 流るるの 日

花はま

流りゆくはあまそよ花の流るる
はまの上よいかに花を流るる

芙蓉

菊よりいさなり よひ 花の流るる

秋の花

咲けり花も せんまをう 見おかけ
咲けり花も 仙錦 仙菊 花 忠尚
志ありしや ま 志ありし ま 花の 貞 志あり
合もや 鬼の志あり ま 志あり ま 志あり

小車にまゐる油の花の流るる 信全

おどろきとんよ小車花の流るる 正甫

流るる方ぞおどろき小車の花の流るる 正利

○ こいよ 胡蝶の お 花も わ 居眠り の 花の流るる 弘永

花の流るる ま 花の流るる ま 花の流るる ま 花の流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる ま 花を流るる

行人の乃々々々々々花がけの揚登
ずむ玉をへるの若れ袂の純節
お落お落ちる風よよもすまひ行勢 宝珠
玉を落とすおまのまのまのまの草 老成

芭蕉

素乃 莖の骨の芭蕉の大扇 宝真

相撲

力の形む利生ら揚お撲 泣元
名をうそよの丸いふ愛す 同
足と先とらひ物ますまひ 信安

雑

けり拍子とて也材木若漏 能楽

中に居る女也とん巴才若なら 定重
娘乃世もかろガクる懸目なと品 重供

稲妻

稲妻のまきの衣れあやう 稲妻 昌玄

林田

山田のり信若も麻のま坊 傑流
稲妻のまのてんてんひいまむの整務
とて立てておあろ稲若いまびり 光之
まにまてあうぬもぬ也稲越 正利

虫

群のいりぐり理そ風も虫の純 信安
立わりりたわりり鳴まのまもあうりま 正孝

鴨

人の又ふねむく鴨やとあひえり
遠へ一子鴨つき網の目方量春可

鶺鴒

真野北うらふ

おけいまくまの心は鶺鴒の
ちい角くらひき鶺鴒の志は
声も我毛ハ秋の日のうら
鶺鴒もくまのあけくさる鶺鴒
都人特々しはあやま鶺鴒

よたきびよるうらひ鶺鴒も肥あ

鶺鴒

郭公居すのあめ鶺鴒の夢宗
消る鶺鴒の目とあやま重貞

秋鷹

目の内も秋鷹をけりくわ鷹の
とばやくもあや刺刀鶺鴒

磯

あつて福あびもあつた弘長
たみせくはあや水衣徳元

月

五月^{ツキ}園^ニの宮^{ミヤ}宿^{とど}め^り秋^{あき}の月^{つき}昌^{あき}意^い

浪^{なみ}こそ八^{はち}輪^{りん}遠^{とほ}くも水^{みづ}有^あ正^{ただ}章^{あきら}

心^{こころ}のよめ^{よめ}意^い悠^{ゆう}々^々よりそ^ら月^{つき}重^{おも}頼^{たの}

秋^{あき}の月^{つき}字^{あき}月^{つき}さ^さい^いは^はる^るの^の字^あ弘^{ひろ}水^{みづ}

天^{あま}のさ^さの^の子^こし^し抱^{かか}り^りよ^よ三^{さん}月^{つき}光^{ひかり}身^み書^{かき}

おらも^もら^らそ^そ抱^{かか}り^り月^{つき}乃^の良^{よし}一^{ひと}正^{ただ}

大^{おほ}き^きお^およ^よめ^めも^もあ^あも^もも^も遠^{とほ}く^くの^の秋^{あき}貞^{ただ}盛^{さか}

春^{はる}の^の東^{あづま}の^のあ^あら^らの^の輪^{りん}秋^{あき}の^の月^{つき}宝^{たから}治^ち

か^かつ^つつ^つも^もや^や尋^{たづ}ね^ねて^てお^おら^らの^の月^{つき}兼^{かみ}津^つ元^{もと}

月^{つき}代^{しろ}乃^の秋^{あき}く^くま^まと^と川^{がは}ら^らと^と

月^{つき}秋^{あき}の^の二^{ふた}人^には^はま^まし^しる^る一^{ひと}人^に弘^{ひろ}水^{みづ}

月^{つき}の^の入^い天^{あま}乃^の白^{しろ}の^の讀^よみ^よ成^なり^り事^{こと}

月^{つき}の^の弘^{ひろ}沖^{おき}と^とい^いら^らる^ると^と光^{ひかり}が^が政^{せい}次^じ

ね^ねお^おも^も帆^ふや^やと^と樹^きや^や月^{つき}は^は毎^{まい}永^{なが}治^ち

秋^{あき}の^の月^{つき}も^もき^きん^んか^かむ^むけ^けお^おら^らる^ると^と水^{みづ}の^の西^{にし}也^{なり}

月^{つき}と^とか^から^らる^るら^らの^のら^らや^やも^も填^う天^{てん}西^{にし}後^ご

水^{みづ}お^お秋^{あき}く^くら^らあ^あま^まれ^れも^も月^{つき}の^のら^ら定^{さだ}時^{とき}

月^{つき}乃^の秋^{あき}ハ^ハす^すか^か入^い意^い乃^の曲^{まが}道^{みち}三^{さん}

月^{つき}乃^の杖^{つえ}を^をさ^さけ^けづ^づる^る月^{つき}乃^の杖^{つえ}乃^の玄^{げん}竹^{たけ}

曲^{まが}山^{やま}乃^のあ^ああ^あい^いか^か月^{つき}乃^の杖^{つえ}乃^の重^{おも}政^{せい}公^{こう}

あ^あら^らも^もあ^あら^らも^もあ^あら^らる^るも^も月^{つき}乃^の杖^{つえ}乃^の重^{おも}政^{せい}公^{こう}

小野みづのりて

三^{さん}乃^の杖^{つえ}乃^のあ^あら^らも^もあ^あら^らる^るも^も月^{つき}乃^の杖^{つえ}乃^の重^{おも}政^{せい}公^{こう}

あ^あら^らも^もあ^あら^らも^もあ^あら^らる^るも^も月^{つき}乃^の杖^{つえ}乃^の重^{おも}政^{せい}公^{こう}

宗頼
 伊伯
 知元
 政公
 正依
 重次
 徳次
 貞義
 梅登
 一利
 一正
 武良

風流舟をこり月たか母か 赤次
 月と日あぐる車乃あ輪か 定春
 出乃字とこらあひねり 昌之
 月と日あぐる車乃あ輪か 道二
 あんきあはるうてんゆめ 定盤
 まん九お月まじきけ鬼か 信全
 上すあど中はおるも水有 重供
 雲はあ雲あ月あつたはら 徳次
 池がたあつたあ月あつた 日
 ひつあつたあつたあつた 後
 あつたあつたあつたあつた 貞登
 出へあつたあつたあつた 成政

瀟月やふれくわらひ言車 正南
恍々しめりもめり月毎 言部
月之邊にまらりたる橋 言部
○月入のま月のいむる葉 正依
流きまにけりもあやしの 言部
まめらる月もや人の月入葉 月
月あやまはくひあまき上葉 流
夜をひかき中を流して

日暮し又死くぬる月のを感次
月のみなを物もあまき言部 貞感
まめらる月もや人の月入葉 言部
夢あはれも月入のりり 言部

弦たれといつといつあ月のらま竹
かきまわらりあまき言部 成段
○墨衣のせこも月丸葉 長昌
水の道き橋基や月のみ形 康庸
い流てもあまき言部 弘水
月影を雲かきまわらり 言部
○月影もそとてうまき言部 西甫
かきまわらりあまき言部 政公
ぬる早とあはれ月入の言部 宗朋
月かめわらりあまき言部 静嘉
らとりか月入のりり 忠也
天蓋とあはれといふ月入 昌三

月^{ツキ}は^{ツク}蟾^{ツク}乞^{ツク}も^{ツク}や^{ツク}池^{ツク}と^{ツク}行^{ツク}お^{ツク}一^{ツク}正^{ツク}
 底^{ソコ}光^{ヒカリ}ま^{ヒカリ}る^{ヒカリ}も^{ヒカリ}や^{ヒカリ}い^{ヒカリ}ん^{ヒカリ}水^{ヒカリ}井^{ヒカリ}月^{ヒカリ}貞^{ヒカリ}盛^{ヒカリ}
 け^ケり^ケ松^ケの^ケ花^ケか^ケら^ケく^ケく^ケる^ケ春^ケ津^ケ元^ケ
 う^ウる^ウ月^ウか^ウら^ウく^ウれ^ウ花^ウの^ウつ^ウが^ウお^ウ重^ウ方^ウ
 の^ノま^ノて^ノ又^ノ盛^ノま^ノ自^ノみ^ノか^ノめ^ノ波^ノの^ノ弘^ノ永^ノ
 お^オら^オう^オ出^オの^オく^オい^オせ^オ月^オ乃^オ舟^オ悠^オ然^オ
 天^{テン}乃^{テン}さ^{テン}の^{テン}月^{テン}や^{テン}さ^{テン}あ^{テン}る^{テン}車^{テン}鎖^{テン}日^{テン}
 へ^ヘ出^ヘる^ヘう^ヘめ^ヘも^ヘ月^ヘの^ヘ崩^ヘ穴^ヘ主^ヘ雄^ヘ
 雲^{クモ}と^{クモ}く^{クモ}い^{クモ}ひ^{クモ}月^{クモ}や^{クモ}瀧^{クモ}す^{クモ}の^{クモ}祓^{クモ}法^{クモ}長^{クモ}
 周^{シユウ}ら^{シユウ}り^{シユウ}も^{シユウ}人^{シユウ}乃^{シユウ}速^{シユウ}や^{シユウ}月^{シユウ}良^{シユウ}友^{シユウ}結^{シユウ}
 〇^〇思^{シユウ}ら^{シユウ}く^{シユウ}の^{シユウ}目^{シユウ}も^{シユウ}張^{シユウ}ら^{シユウ}う^{シユウ}る^{シユウ}舟^{シユウ}昌^{シユウ}玄^{シユウ}
 文^{モン}月^{モン}や^{モン}あ^{モン}げ^{モン}い^{モン}ま^{モン}ふ^{モン}は^{モン}芝^{モン}陰^{モン}停^{モン}泊^{モン}

月乃也やあふいをいんげん道二
 十六でむいふいんげん月乃貞重方

遊芸一

の^ノ月^ノや^ノら^ノ移^ノ系^ノ法^ノ勢^ノ用^ノ志^ノら^ノと^ノ
 猶^{ユウ}因^{ユウ}は^{ユウ}誘^{ユウ}め^{ユウ}ら^{ユウ}る^{ユウ}も^{ユウ}月^{ユウ}も^{ユウ}車^{ユウ}船^{ユウ}定^{ユウ}河^{ユウ}
 う^ウ下^ウれ^ウら^ウぶ^ウひ^ウあ^ウり^ウや^ウ水^ウ付^ウ貞^ウ威^ウ
 こ^コの^コま^コた^コか^コら^コふ^コい^コも^コあ^コら^コ月^コ丁^コ理^コ
 男^{オトコ}乃^{オトコ}と^{オトコ}も^{オトコ}ら^{オトコ}月^{オトコ}て^{オトコ}ら^{オトコ}は^{オトコ}持^{オトコ}い^{オトコ}一^{オトコ}正^{オトコ}
 月^{ツキ}乃^{ツキ}り^{ツキ}彩^{ツキ}ハ^{ツキ}三^{ツキ}十^{ツキ}世^{ツキ}傳^{ツキ}外^{ツキ}弘^{ツキ}永^{ツキ}
 一^{イチ}月^{イチ}か^{イチ}い^{イチ}く^{イチ}身^{イチ}も^{イチ}さ^{イチ}る^{イチ}月^{イチ}常^{イチ}日^{イチ}
 文^{モン}月^{モン}や^{モン}ゆ^{モン}い^{モン}出^{モン}門^{モン}外^{モン}虹^{モン}乃^{モン}雲^{モン}吉^{モン}弘^{モン}
 の^ノ衆^ノ乃^ノ月^ノや^ノ崩^ノの^ノ空^ノま^ノい^ノ以^ノ宗^ノ朋^ノ

名月

今月月まろくふようの国 静寿
三光の海舟のめし月丸の晴 重頼
うそ月の影の今宵の月影 昌意
名をうらめ海舟のめし月丸の晴 一正
まごみちまきんぬりまきんぬり 弘永

安藝國のなまきり

三光の中国一を安藝の国 曰
くろがらまきんぬりまきんぬり 月影
月代のなかのめし月丸の晴 美久
名月丸のめし月丸の晴 正
月影のめし月丸の晴 重頼

中月丸のめし月丸の晴 正
まごみちまきんぬりまきんぬり 弘永
名月丸のめし月丸の晴 重頼
月影のめし月丸の晴 正
名月丸のめし月丸の晴 重頼
名月丸のめし月丸の晴 正
名月丸のめし月丸の晴 重頼
名月丸のめし月丸の晴 正
名月丸のめし月丸の晴 重頼
名月丸のめし月丸の晴 正
名月丸のめし月丸の晴 重頼

月ツキ二ニ下ノ公ノのハぬハびハやハせニ宝珠を降
 我レ我レ我レの新とハいハぬハやハの月 主法
 そのも名不だハばハらハるハ月貞 光三
 名月を餘の物をとぬハるハ 宗房
 持テるハのままハの月也思水精 御新
 ありし時月をあすハびハ天 定時
 月あるハ水精乃あるハ安明
 月乃るハ空ままハらハるハ 外宗

十二夜

とはのけてハせハれハ月の余能如加
 月レ此中より粟乃月余一正
 名をゆるあまの月也交逢あり 秀重

修言は海のりく

まてあらや月も寶乃女並能如加
 枝大豆今有月毛の馬茶か酒乞

菊

形をませ世ハ揚まの道酒昌元
 菊小いこむ菊并園也能如加 正重
 人レ此意をしりり也菊并弘水
 命をとく人も菊也ちり也重頼
 才をあげの程いき也菊乃園 昌元
 々をあらるハ五耀乃皇乃菊乃花 正重
 菊酒乃下乃之乃菊乃花 秀重
 一本とゆいふ也菊乃菊乃花 用之

花の影をばたけくさくさ草
負義

国九尾

重陽乃秋やわが心なる菊
負継
ふたまたまた秋のきりり
感政
二万もさけき我道は花の教
水次
はるあやまきならん菊の
正季
大白のいとおりにし菊は花
伝連
雨露乃思はるはる菊
西雨
清陽乃江の想はるはる菊
無前
苦の種は綿をきまぬや才
多る
下勢の花は影もも菊
樂来

嶺て園とらむはる菊の
白ま
有哉菊は影をさるはる菊
樂来
花は潤るはるはる菊
宗房
明日は影をさるはる菊
昌玄
早の日は影をさるはる菊
弘永

草

笠松乃秋を来たるはる菊
易捨
よと揚て影をさるはる菊
宗房

楓

花あるはるはるはる菊
永治
至くあつはるはるはる菊
政公
通りはるはるはるはる菊
宗貞

色葉

七葉の楓（フナバタ）も七のころを祭式 重貞
 ぢひるひよむわお葉のころは音 重供
 かりんぼとあるれあにいな 道二
 みちぬにころ十れいろは祭 重
 たがきも及びあはついろは祭 宗隆
 ちりぬるといろはを傍り風の 宗頼
 いろは祭もあついろは祭は橋の 声 重政
 山まきころの祭もあはついろは 忠也
 風のまもあはついろは祭は 正次
 南無いよむとあはついろは祭は 宣重

名木紅葉

○花ももやむの初紅葉 節
 山嵐まきころの祭 昌元
 瓜（ウリ）もあついろは祭の村お祭 弘永
 葉と木のころは深るもあついろは 光有
 秋のまきいろは祭あついろは祭 一正
 名もあついろは祭あついろは祭 正
 町もあついろは祭あついろは祭 玄康
 くらもあついろは祭あついろは祭 吉次
 すがもあついろは祭あついろは祭 昌元
 深るもあついろは祭あついろは祭 弘永
 山嵐まきいろは祭あついろは祭 道吉

おき

あはれいしにふるも朝のつらき 重頼
竜田のよみ揚のくみおき 永治
赤うそとらふま紫の河もか 由氏
おきよのふりてり茶 忠也
おきよのふりてり茶 重貞
おきよのふりてり茶 重方
おきよのふりてり茶 重山
おきよのふりてり茶 重利
おきよのふりてり茶 重元
おきよのふりてり茶 重信
おきよのふりてり茶 重安

通りわけの河も深て流おき 信安
おきよのふりてり茶 重頼
おきよのふりてり茶 重貞
おきよのふりてり茶 重方
おきよのふりてり茶 重山
おきよのふりてり茶 重利
おきよのふりてり茶 重元
おきよのふりてり茶 重信
おきよのふりてり茶 重安

木實

おきよのふりてり茶 重頼
おきよのふりてり茶 重貞
おきよのふりてり茶 重方
おきよのふりてり茶 重山
おきよのふりてり茶 重利
おきよのふりてり茶 重元
おきよのふりてり茶 重信
おきよのふりてり茶 重安

赤きく障子あざしとま松まつ檜ひのき粒つぶ 以も昌昌

ふ又また首くび粒つぶもも千ち万まががららななかか 亦また有ある

枝えだかかくく縮ちぢくく推おかかしし車くるま 志し心こころ

象ぞうかかくくからら栗くりくくかかいい棹しやく 貞まこと風かぜ

○美みかかくくハハもも好このむむももととカカレレ 貞まこと義ぎ

本もとははららぶぶ市いちををたたししるる祝いわい大おほ祈いのり 意い敬けい

ええ栗くりももかかくくかかみみははるるもも亦また 道みち二に

山やま猿さるももくくひひままののああららののああ 燃も火か

実みととつつひひまま紫むらさハハ車くるまとと代しろ系けい 同どう

水みづ栗くり亦またなるなるももくくららああのの他ほか 同どう

粟あわののももああははららくくととままのの子こ 亦また亦また

葺

女めはは男おとこ松まつももままたたけけてて枝えだ木きのの子こ 重おも貞まこと

穴あなををああららててああららもも山やま路ぢのの荒あ草くさ 以も云い

るる亦また葺つハハ四よははららのの寺てら新あらた御ご亦また 恒とこ乞ご

憑點

方かたかかくく出でたたささびび鯨くじらももささりり 意い敬けい

ととびびおおよよとと頼たのままびびらら點てんのの點てん 恒とこ乞ご

紅葉附

くくらら水みづ林はやし也なり遊あそぶぶああのの葉は附つ 宣のたま之を

江戸手本にまじりし時

ははななははぬぬるるああららああよよおお葉は附つ 重おも頼たの

水みづ屋やハハ表あけけ綿わたくく子こ亦また附つ 昌あき之を

水みづ神かみもも向むかひひぬぬるるああのの葉は附つ 定さだ時とき

下ふは水は枯るやむ多の翁 重方
柵うたふれもあぬお多の翁 宗朋
酒のめぬみよ酔てもお多の翁 法元
酢とさくつらのお多の翁 まよ 一正

雜秋

杞てくろ書や種未だ 梵字一味
お多の翁とんやんぬめ揚燈籠 宗深
足抱もなましきまら燈籠外 道徳
水玉もまつや林の河放我 法元
伊勢かりて

大窪の酒や伊勢羅林の竹 同

一睡のあぐめ酒や夏乃種 水治
中よりもまの羅林や等々の首の弘永
栞約くくもまの羅林の湯外 宗深
切妻や桐の葉や丹林杉妻 法元
聾あぐはくせ物う林茶子 西五
お多の翁のゆるぐや林の風乃白 伊伯
お多の翁の海子拍のめんをを 宗朋
秋風よらうとすらすらすり木賊水 玄心
あやれをたつてびくろ多の翁 法元
秋の夕なすのゆるぐや林の羅外 宗深
お多の翁もよたれを常風又多の翁 弘永
秋風よまの羅林や那の翁 法元

生るるもはあらにふもあふはくも
から月とふとくさく入結の風ぬ段

惣田文万ののともか

若き乃題めく

若きと淡めく惣田州の会と一

蓋あひららむも新初也の文未也

丁らあま子志くは家類の宿燈燃煮

乃まぬ之鳥けつのたのたど忠也

文月をふりて池のまひま毛ま正信

つらま文月もほほやむ事 漁を

あつとふとあつと文月小車負

冬吹草題目録

冬部

初冬 時雨

落葉 霜

飛散 飛英

雲 氷

冬月 埋火

炭竈 水鳥

鷹 神樂

冬菊 冬木海

冬鶯 歳暮

年内立春 雑冬

冬

初冬

枯^れ木^きの^なや^あん^をさ^り此^の月^は 漚^え元
 餅^{もち}い^くお^のたる^を非^のの^は備^へす^り 徳^{とく}
 十^とめ^り強^くて^もま^まい^と非^の月^は 西^の寺^ま
 亥^の子^餅も^きや^あん^をさ^り此^の月^は 弘^の水^も

時雨

末^の世^も 謙^をて^この^河 重^方
 う^そ黒^くろ^うの^河も^海と^は河^も 重^頼
 雲^さん^や河^はが^とす^らる^は河^も弘^の水

○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永

雲霧

○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永

雲

○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永

○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永
○ 雲霧のちかしらば子やの雲霧弘永

かくそよまじりまもるもつ風能
 世思セシとハ其コノ名ナをハ富士フジのノ名ナ 昌シ之シ
 二國ニのノ名ナもハいハなハのノ名ナ 弘コ永シ
 尾ビもハ白ハクのノ名ナ 一ヒト富士フジのノ名ナ 繁シ末マツ
 言コトたハあハたハ指サシやハまマさサらラ 宗スネ命ノミ
 物モノつツじジもハまマさサらラ 高タカ佛ブツ 元ゲン儀ギ
 氷ヒけケのノ名ナもハあハりリしシ雪ユキのノ名ナ 貞マコト威イ
 中ナカにニ推オシらラるルもハ富士フジのノ名ナ 弘コ永シ
 天アメとトりリ備ヒとトりリたタるル雪ユキのノ名ナ 威イ威イ
 水ミヅ神カミのノ名ナもハいハなハ 下シタ等トウ
 言コトひヒらラるル人ヒトもハいハなハ 曰イハレ
 言コトらラるルのノ名ナもハ富士フジのノ名ナ 威イ威イ

八葉ハツエのノ名ナもハいハなハ 重オモシ方カタ
 弟ケイのノ名ナもハいハなハ 正マサ行ユキ
 清キヨとトりリたタるル名ナもハいハなハ 重オモシ貞マコト
 大オホにニ歡タガハシもハいハなハ 雪ユキ女メ 昌シ之シ
 言コトらラるルもハいハなハ 角ツノ又マタ
 雪ユキ女メもハいハなハ 男オトコ和ニギ小ヒコ 梅ウメ威イ
 言コトらラるルもハいハなハ 重オモシ頼タカシ
 言コトらラるルもハいハなハ 宗スネ命ノミ
 出デるル日ヒのノ名ナもハいハなハ 政マサ之シ
 冬フユ来キてテ也ヤ持モチちチもハいハなハ 梅ウメ威イ

風の姿をわらわす物やねの音 道二
かきくわんふらるる音やちん 西武

繪師乃もあかく

〇かた地をいわたる音や白く 重頼
縷母の綿乃たむけいた音 永次
けしとこのちん音あおの 西条
様立し音はむじ山は中 徳家
神垣乃は幣やほし行の音 永次
白髪ももつらんとて兼毛 一満
〇音と花とちんは只月の音とら 西南
まをなるもなげあやあめ 月
まのまのいふたのまき音 重慶

海内おれん音ぶまり雪の音 光と
雪小竹そり揚るる山も音 光成
あからちももつらとれ物音 西南
山よりまはれもなむれ音の音 光有
もれ音ももつらや音佛 日
ちまもももつら音の音 光有

氷

氷の音あつとあん氷の音 宗朋
我鬼の目もあつとあつと 正孝
氷精の音あつとあつと氷の音 秀重
白張の音あつとあつとあつと 忠
雲の音あつとあつとあつと 弘永

新水や下す氷さる納家昌玄
浪たぬ川の氷も風さじ道二
水がぬれ甲にぬる氷の
多桶ふかたさひる氷の秋廣
掘門のさぐる氷の那春可
笠小え水とりさぬ氷式正
櫃の氷封を封する氷の
厚氷さるるともや忘氷
○雨少りて地ぬれぬる氷の
地ぬれぬ氷も氷の氷の
氷けりぬ氷の氷の氷の
負もさるるありする氷の

陸水乃金具ありし是氷新
氷ぬれぬはさる川の氷の
あつとさるも厚き氷の
氷の氷でさるる氷の
桶なるとさる氷の
氷つる川の氷の氷の
みまはる川の氷の氷の
氷の氷の氷の氷の氷の
氷さる地の氷の氷の
冬は氷の氷の氷の氷の
氷の氷の氷の氷の氷の

水産物とて紋やも而院 政云
銀屏とてころりもその水外 利忠
川邊より又川けり米れ 氏政
衣まひる川乃瀬中の水外 正利
とてあつ池のちやくらり 祖翁
むらさきなどぞくもも厚も 昌玄
尺ちこ様をれ髪つ厚も 昌玄

國くふあつちや水の外川 梅壺

冬月

とら月をいふもあつちのい 重方

池水よりつづ月の新のい 重方

埋火

焼物へ埋む火花は白ひ外 重方

密もそへ廟よりふ火外 定後

だいてねも肌ゆりふ火外 正家

あつち火の清まらきし 後心

埋火をいふも猫のい 重頼

とら火は近つちあつち 弘永

まきまき風の穴より 忠也

まきまき直といふのい 宗守

細炭やをいふもあつち 宗房

いりりまきけりあつち 孝友

山灰竈

白物もやう炭をいふもあつち 孝友

炭竈すすいは只山姥やまば火桶ひおけに焚たきき
すまみれよめ子こもけあ 貞まこと光あき

水鳥

昔むかしのころ昔むかし乃の形かたちの鳥とりの甲かぶと 近依ちかよ
なまは云いにいれぬ時ときも我われ丹後たんご
和わ田たの鳥とりも半はん三さん時じの交まじり 弘永こうえい
昔むかし鴨かもとといいふふ新あらた理り 一ひと正ただ
料理りょうりとといいふふ鳥とり 老おの
鴨かもとといいふふ水みづににありあり湯ゆが 不ふ棄し
水みづ井い乃の昔むかしのの鳥とり 一ひと番ばん 昌あき元もと
浪なみ風かぜとといいふふ仲なつり 友とも繼ついで 正ただ景かげ
世よににおおりりにに鴨かものの鳥とり 辨わづら奇き

水みづ鳥とりのの波なみはは舟ふねにに 弘こう則すなは
水みづ鳥とり乃の本もとのの鳥とりもも波なみのの花はな 弘こう元もと
鳥とりのの本もと板いとと鴨かものの鳥とり 正ただ利り
難あた波なみががるるがが鴨かも乃の鳥とり 弘こう永えい
浪なみのの鳥とりももありありとといいふふ 日ひ
水みづ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ
とといいふふななららひひららにに浪なみ 宗むね朋とも
水みづ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ
水みづ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ
水みづ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ

鷹

鷹たかとといいふふ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ
鷹たかとといいふふ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ
鷹たかとといいふふ鳥とりのの鳥とりももありありとといいふふ 一ひと正ただ

芦鴨の強もあざむく場小月

秋葉

まゆあふ秋のあふく秋の光有
舞あめの平也也も秋の重良

冬菊

冬咲くはれ也菊の花 忠景
冬咲きあや十歳乃菊草 正安
冬ももさる錦もあけはの 正平

冬梅

あふ袋まきれも用冬の花 忠景
冬咲くもあけはの光有
冬咲の梅も積もる吉井 正徳

冬ももさる錦もあけはの 正平

冬鶺鴒

冬咲くはれもあけはの花 忠景
冬咲くもあけはの光有

細代

伊勢狸もあけはの細代 信安
伊勢へあけはの細代 信安

歳暮

寅の年も尾計のあけは 忠景
寅大星もあけはのあけは 信安
老と賀もあけはのあけは 正平
鬼やんもあけはのあけは 正徳

○もらまの境もてしむるは善光を
一平此矢の指ハちねの朝りか一木
終るとしむる月日角毎重方
重入る行不も一木とありホ 正ま

親の追ふる

○たてこふ事も似奈此音か 重頼
あつよ何らうへ年の矢度か 貞盛
き分ふらもまらお委ぬか 徳武

晦のよ

今日少やま此終るはま日
田舎へり人の饑餓な
年もまきくせもをそとら 日

人ハり年られ竹のよまきり 友友
年此矢の筆乃をまはまら 正業
き分の楷もまの矢乃根ホ 正依
脯月乃あられくもたまホ 徳嘉

年月立春

年此月ハ行良てまま目外先有
来々まへまの肉おとまらけ 元弘
ま乃肉のまハ陰陽わ合ふ 正治
と此ら久ま乃矢入のま目外成政
立春おやありへらわらば 宗房
年此肉のままを細わひあかり 政云

雑冬

深平ハ古器品々乃冬雪氷能器
冬本てハ電めりもの茶かや老さ

字活ハやまうりく

清くおや字活十帖の紙袋能器
う下や母子綿子乃兄才丹庵
千早振張子紙あも湯糸康耳
あやり十たまのまじ菓子餅定時

親の追善

冬月日と換ま清の枝子昌意

人乃親の身備りもの

大雪や人のいふちも梅月

これ丸洞りの名冬からまあ弘宗

廻文之安句

春

月いとお梅のぶらりて梅月を月

重貞

梅乃花を

重方

なごじき恋ぞや母に本つてれ

むくさ

十赤

あまのほほむめ大隆もぐめあ

正依

あまのたよまよなる野梅外

秀重

登りしむせんうとあんとぐりひさ

葉とせり入て

重長

なごくだいさあせり葉たらく

長きまつこもくろくろく水菜の
貞義

秀重

松の木のちやとちよ折の妻

新在家として 徳宗

素まじり書りやまゆ彩を
けい

宗房

暖かしの花形くろくの鼓
ぐい

二階頃の桂と 重頼

○赤くふ折の桂の二階
ち

重方

本はけりしきらりぬる様

春句

花の鈴なりきりきり
すま

弘永

と釣皆あまきし水端の花は酒

徳宗

おぐじ目の雲もや山も花
くろく

同

取目張もくもくもくもく

重供

名へのうー花の葉もみ
ち

重貞

さいのうたあていあてい
ち

貞重

向ぬりし花のまき
ち

徳宗

あまきし花のまき
ち

卯はくろくしむきじたるの良同

光重

らゝいむい本番のついでに手帳

忠也

らゝいむい本番のついでに手帳

正長

なほくしむい本番のついでに手帳

信之

きんたしむい本番のついでに手帳

同

取目め舞蝶とふ蝶二定くれ

同

けりつて水かきついでに手帳

宗房

はくろくしむい本番のついでに手帳

光有

まはのついでに手帳

重供

申一葉のついでに手帳

長好

はくろくしむい本番のついでに手帳

夏 由文

信之

木りきつて水かきついでに手帳

昌志

はくろくしむい本番のついでに手帳

樂嘉

たはむらひの白雲つし月乃友

くも所の月を 若久

長月を懐かたよみよた良津水

正直

皆んくたるう物雁う水南

作名嘉

まろふきは鴨も巻してねねがた

梅盛

まのじき書あがり得康の巻

作名嘉

中々咲た南よは草平素う形

同

目くらましの花をたぐれた花笛

同

後野乃法も垣野の瑞

同

まふまのひかりの月よ存よ梅

宗房

けし垣むじろくまうらん花が系

作名嘉

咲た折かたあひるあまきかよ草中

重貞

はく紋よつちんあけいしあま

一正

もろれお花の草の草の草

梅盛

咲かたの草にやんく形かん草

44

搗うのきいまの種のあい池のあ ま世

中の戦とじがりんを記亦 同

中のさままがばりの推部

ながらいや推下 同

冬 廻文

池の皆鴨の美鴨の浪乃景 重頼

池の皆鴨の美鴨の浪乃景 同

長寝の鴨の交交交 同

夜のくふじもとんのあ 同

葉のまの枯まのまれの庭 重貞

日のの餅をその乳のまれに 同

乳も吞くろうこまるようの餅 同

むえなはののむのの酒の交 同

なまののなまののなまののな 同

又或白り

あはげし屠^と殺^そ酒^さぞ酒^さ酸^か

伊^いま^まぐ^ぐか^かと^とに^に成^なる^るは^は成^なる^る也^や

遠^とる^るは^は遠^とる^る也^や花^はか^かん^んと^とか^か代^{だい}

糲^らま^まの^のつ^つい^いま^まの^のま^まん^んま^まの^の場^ば

長^ちき^きと^とく^く冬^{ふゆ}赤^{あか}ぐ^ぐゆ^ゆ塩^{しほ}木^き部^ぶ

右^{みぎ}に^にあ^ある^る

い^いま^まは^はけ^けき^き ま^まけ^けは^はあ^あひ

あ^あら^らま^まの^のし^しん^ん あ^あま^まの^のれ

う^うひ^ひま^まい^い ん^んあ^あら^らい^いふ

ま^まの^のい^いふ^ふ ら^らの^のい^いふ

長^ちき^き部^ぶ 志^しが^がま^まら^らふ

あ^あは^はか^かん^んあ^あら^らく^くひ^ひの^のあ^あま^まの^のあ^あら^らい^い
み^みま^まの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^い
但^たを^をれ^れい^いの^のあ^あら^らい^い
等^らの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^い

折^まの^の習^{しゆ}冠^{かん}

す^すの^のあ^あら^らい^い

透^とる^るあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^い
長^ちね

すめいのごんね

日

於菜を色おちりり此物も菜

句數之事

他者不知 二百十五

名之任

春可十七 昌意七十七

道秀三 依音十

道二共 宗阜一

宗儔一 如雲一

背眠一 道宅二

可赤十一 玄竹四

利安一 香庵一

六磨一 宗守一

改昌五 正依六二

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|
| 重正二 | 安利三 | 宗輔三 | 宗顙八 | 吉政十一 | 定重十七 | 意敬廿六 | 宗房五十 | 重貞三十九 | 重方六十 | 政公四十 | 正直四十二 |
| 重長三 | 重定三 | 吉林四 | 重久五 | 梅盛十一 | 忠也十八 | 貞義十四 | 重顙四十八 | 重供三十九 | 正章五十七 | 永治四十 | 秀重三十七 |

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 家根一 | 請光一 | 清長一 | 吉貞一 | 榮正一 | 勝俊二 | 宗竹一 | 重滔一 | 政之二 | 賴實二 | 由氏二 | 正次二 |
| 保成一 | 吉教一 | 信忠一 | 是信一 | 宗隆一 | 重政一 | 直次一 | 一滴一 | 重好二 | 般繁正二 | 正長五 | 光重五 |

重次一 交勝一
 正包一 賴定一
 家治一 長好四
 和通一 慶次一
 正成一 貞勝一

增之恒

孝交女 道家一
 至慈一 道穢二
 了忠一 宗夕一
 宗二七 正甫十六
 一正辛四 宗治十
 貞德六 貞威八

成安三 真之六

弘永百安 威政八

定春八 成政二十

永次八 元弘六

由延二 正之五

安知四 長重五

一味二 重直三

吉次二 成良二

先忠二 正則二

重吉二 正次二

一利一 於雪一

吉一一 信緒一

感次一
宣次一
宣之一
富進一
永政一
通教一

大坂之任

空存五
安明四
西之一
重周一
務明一
空次一

正信一
近依二
利貞二

那山之任

正武十
岑松二

大津之任

彦則一
宗連五

膳所之任

直之一
尚也一
由生一

伊賀之怪
一木四

勢別山田之怪

利情六 宗仁四

玄心四 文性一

夷清三 宣務三

延務三 末吉三

重隆三 可務二

光有卒三 正利廿八

玄家二 正總二

金石二 祖翁二

光孝二 安清二

用久二 重次二

宗茂二 長昌二

西友八 祐宗一

國茂一 秋彦一

孝晴一 威親一

元儀一 易務一

家儀一 盛彦一

宣盤一 守種一

貞助一 家時一

共親一 弘喜一

常流一 忠景一

| | |
|-----|------|
| 滿安一 | 光成二 |
| 光貞一 | 光貞妻二 |
| 弘則一 | 弘浣一 |
| 宗堯一 | 吉滿一 |
| 宗次一 | 後夢一 |
| 氏政一 | 懿的一 |
| 忠尚一 | 貞光一 |
| 文惟一 | 良傳一 |
| 政昭一 | 盛長一 |
| 光秀一 | 弘長一 |
| 未光一 | 正奎一 |
| 資成一 | 正次一 |

| | |
|-----|-----|
| 清款一 | 常弘一 |
| 守任一 | 如心一 |
| 不榮一 | 光英一 |
| 富沢一 | 与一 |
| 子世一 | 兵城一 |
| 留城一 | 齡都一 |

同漢之任

| | |
|-----|-----|
| 宗除五 | 盛政一 |
| 以一二 | 盛秀一 |
| 起貞一 | |

同和坡之任
吉弘六 加安一

白之任

德元五十 玄札二

利邑六 常久七

繁務三 康耳六

新口一 好務一

正矩一 重房一

元綱一

紀及若山之任

宗朋十五 定時次

伊伯六 春庵二

正平八 良壺一

務正一 知元一

扶國一

幡別地路之任

孝澄八 利忠三

俊安一 重政一

友重一 利次一

庚伽二 政次一

因幡之任

康庸八

安藝之任

寛記二

越前之住

信安七 信全四

加賀之住

可理二

右之卯

紀伊前一 丹波前一

丹波前二 美濃前二

肥前前三

白敷合二千句

地者二百六十人

毛吹草春芽七

春

○書のりきことと給ふる事しめ

田舎中も京あり社のまきちて

あつあつとよはかんと商人あつ

○まゝのりきことと給ふる事しめ

すぐに業張まらがること

百歩乃御事ごごとらまる元相

此えら〜老もあやぎにち

あつあつとよはかんと商人

試筆の音をあつとら

あつとらとらとらとら

百かぬの大方か通まきめあかしく
 こそまはれおのこころをいふあめ
 年まの願まきつらよまあぢ
 すみくれおれおとほひかえりて
 矢余りて地ろこまきものあう
 うまもあまのあまの山の腰
 あひかえり夜あまのいや柳
 昔柳や花あまのめ海物
 枕あまの借とくすあまのひ
 志のあまのあまのあまのあま
 此のあまのあまのあまのあま
 目もあまのあまのあまのあま

花のほほまはあそく嘆かえん
 こそまはれおのこころをいふあめ
 年まの願まきつらよまあぢ
 すみくれおれおとほひかえりて
 矢余りて地ろこまきものあう
 うまもあまのあまのあまの山の腰
 あひかえり夜あまのいや柳
 昔柳や花あまのめ海物
 枕あまの借とくすあまのひ
 志のあまのあまのあまのあま
 此のあまのあまのあまのあま
 目もあまのあまのあまのあま

ワビく形聲は鬼あまの娘の形

夏

鬼乃其あまの娘あまの娘

花ハナ餅もちがらまのうう眼まなこ首くびかえりて

こしらひていへるもあはれ目めの業わざ

石イシ菖しょう乃の舞まひ水みづ流ながるる水みづあま

穂ほ波なみの犬いぬ乃の敷しきくく海うみも

川か邊べのの草くさももささかかのの花はなもも

赤あかきき金かね輪りんははももああままのの心こころ

みみれれつつづづけけ乃の上うへままててかかららきき

ああままのの心こころももああままのの心こころ

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

秋

世乃うらな事いさむめあるま

山川き物もののさびららるる點ちりもあれ

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

あまの心もあまの心

借りて五志のついで田のぼくを
つらきなまは播きとつて
秋の田のついで魚の鱈たぐりて
くまびられ敷くをせしむる
もほよそついでまもぬるは山

冬

ゆちのひを夜更のう思ひ
いで養ひついでついでついで
むらむらむらむらむらむら
一つ甲のあふきの居く
佐野のついでついで

弱とめて神つらぬふかおろり
難波ばばばばばばばばば
古家ばばばばばばばばば
なまもあはれもなまもあはれ
かえりておのれおのれおのれ
いざなを採めるはうれお
あつじの火桶をむる命ゆめ

春

恒吉のまはぬる人
そりてぬるぬるぬるぬる
ついでついでついでついで

かまひつゝまの今世目くら

あつた國のあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

山王の指りし事ゆかへこそ

難波江のありきとてはめ
槽ちをなすく風とて津の浦舟

文く此雲の海を照りし
越お紙しりしけりし紙し

栲しる鶴とて後いあぢい

此の國のあつたかたのち

わすのあめおぼしてそ

船あがのうらうらかま綱の真

お入のままに程と思ひる

うらと屏風の絵の上も也

じりうをてぬ拙しれ相づ

とぞとてれとらりの矢あり

ゆりありしき水舟風し

かろめ病の難えと道のれう録

そびくまげてうたす各

落人おちのうらいの音ほい

ひら此まん申程を踏し

あもろ人あのあいし

まろとていふ思ひし

酒さけのままぬぬしし

あろとていふ思ひし

のちああのああのああ

けりああのああのああ

清花母あつてしるるま
 かりとあつてもと毛線はなのき
 松あてとくゆりて松のゆいゆ
 魚あてとくゆりと思ふ牧野あて

右合百句

